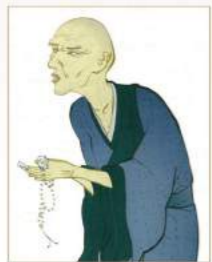




### 宗祖・一遍上人 (1239~1289)

一遍上人は、延応元年(1239)伊予(愛媛県松山市)の豪族である河野通広の次男として誕生、10歳で仏門に入り、華台上人、聖達上人(共に浄土宗西山派)のもとで修行されました。一度は故郷に帰り、半僧半俗の生活を送られますが、33歳の頃、一念発起し諸国遊行を始められます。再出家から3年後の文永11年(1274)熊野本宮証誠殿にて参籠の折、熊野権現より念仏信仰の真髄を授かります(時宗の開宗)。「往生はただ、「南無阿彌陀佛」によってなされる」と悟り、「信・不信を問わず、浄・不浄を嫌わず」を信条として念仏札を配られました。念仏札を配る「賦算」を通して人々に結縁を勧め、「踊り念仏」を通して人々と念仏の喜びを分かち合われます。旅の終わりは正応2年(1289)51歳の時。神戸の観音堂(現・神戸市兵庫区、真光寺)においてご生涯を閉じられます。遊行寺の境内に建つ遊行するお姿の銅像からは、辛く厳しい生活ながらも、信念と清貧を貫き、宗教人に徹した偉容がうかがえます。



### 遊行寺の 縁起

当山は通称「遊行寺」の名で知られており、正式には藤澤山無量光院清浄光寺と号します。開山は俣野(現在の藤沢市、横浜市周辺)の地頭であった俣野氏の出身である遊行4代他阿呑海上人です。その兄である俣野五郎景平の寄進により正中2年(1325)に創建されました。創建以来、数度にわたる戦火、火災により堂宇は度々焼失し、その都度復興してきました。永正10年(1513)兵火により全山を失った際は、当時、遊行21代他阿知蓮上人が滞在されていた駿河長善寺に本尊を移動します。その後、ようやく藤沢に再興されたのは、慶長12年(1607)のことです。そして、寛永8年(1631)に江戸幕府寺社奉行から諸宗本山へ出された命により、清浄光寺は、「時宗藤沢遊行末寺帳」を提出し、幕府から時宗総本山と認められます。現在の遊行寺は、東海道随一と謳われる木造本堂をはじめとした伽藍〔平成27年(2015)に10棟が国の登録有形文化財に登録〕や樹齢700年と推定される大銀杏などを有する修行道場として、また市民の憩いの場として今日に至っています。



### 時宗総本山 遊行寺

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富1-8-1  
TEL 0466-22-2063 FAX 0466-23-8243  
www.jishu.or.jp

交通(最寄駅)  
藤沢駅(JR東海道本線・小田急江ノ島線・江ノ島電鉄)  
藤沢本町駅(小田急江ノ島線)  
徒歩: 藤沢駅北口より15分、藤沢本町駅より20分  
バス: 藤沢駅北口4番または5番のりば  
「戸塚バスセンター行」「大船駅西口行」乗車、「藤沢橋」下車



### 藤澤山無量光院清浄光寺

### 全国遊行廻国図

真教上人の  
主な遊行地  
(1289~1304)

1. 兵庫
2. 丹生山
3. 敦賀
4. 越前惣社
5. 宮越
6. 加賀国
7. 越後国
8. 善光寺
9. 甲斐国
10. 伊勢神宮
11. 当麻



### 二祖・真教上人 (1237~1319)

一遍上人の法燈を継承し、実質的に教団を築かれたのが、他阿真教上人です。出生は大分とも京都とも言われ、一遍上人に出会われる前までの経歴は多くが不明です。一遍上人最初の弟子として「他阿弥陀仏(他阿)」の名を授かり(真教上人以後の遊行上人は代々「他阿」を継承します)、以後12年間遊行の旅を共にされます。真教上人の最大の功績は、一遍上人亡き後、全国の時衆をまとめ、時宗教団の基盤をお作りになったことです。一遍上人の遊行では、旅をするので法話を聞いたり、教えに触れたりする機会に継続性はありませんでした。そこで、全国各地に念仏道場を建立し、僧侶の育成、布教方法の工夫等に力を入られます。真教上人は嘉元2年(1304)、病弱のため相模原当麻(現・相模原市南区)の無量光寺に独住されます。この独住は15年間に及び、その間も、一遍上人の教えを広めるために、「道場誓文」をおつくりになるなどして時宗教団の発展に尽力されました。